

みんなのポジトリ

国立民族学博物館学術情報リポジトリ National Museum of Ethnology

アラビアンナイト：ファンタジーの源流を探る

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2013-02-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 西尾, 哲夫 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10502/4799

中世アラブのミステリー

ホームズの先人たち

毒殺の方法——ドゥバーン賢者と本の秘密

アラビアンナイトの中には、ミステリー仕立ての話もいくつか入っています。古層に属する「漁夫の話」の支話である「ギリシアの王とドゥバーン賢者の話」には、ウンベルト・エーコの傑作ミステリー『薔薇の名前』（東京創元社）で使われているものと同じトリックが登場します。

「ギリシアの王とドゥバーン賢者の話」は、恩知らずの国王のために斬首されることになった医師の復讐を語った物語です。王は難病に苦しんでいたのですが、ドゥバーン賢者の治療によって平癒^{へいゆ}することができました。ドゥバーン賢者は秘薬を練りこんだポロ用のスティックをつくり、これを王に献上したのです。ポロに興じていた王がおおいに汗をかくと、手に握っていたスティックから秘薬が体に浸みとおって病が治癒したのでした。



ドウバーンの首の前で本のページを繰る王。ジョン・バッテン画 (1893)

しかし悪宰相の讒言ざんげんを受けた王は賢者を疑うようになり、命をとってしまうことにしました。賢者は最後の願いとして世界中の不思議が記された本を献上させて欲しい、自分の生首の前でその本の内容を声に出して読めば、生首となった自分は王の質問すべてに答えるでしょうと言ったのです。王は賢者の答えを聞きたい一心で、指に唾をつけながらもどかしく本のページを繰っていたのですが、ページには毒が塗ってあったのです。中国の奇書『金瓶梅』をめぐってもこれと同じような伝説がありますし、新しいところでは本を切手に置き換

えたトリックも登場しています。

ところでこの話は、粹物語とは対比的な構造になっています。斬首を宣告された賢者は「ワニの話」について触れます。それはどのような話かと王が訊ねるのですが、賢者は「このような状態ではとても話を語ることはできません」と答え、

結局「ワニの話」は語られませんでした。つまりシエヘラザードやそれに続くいくつかの物語の登場人物たちは、話をするることによって命を得るのですが、この賢者は話を語ることなく命を失っているのです。これについては初期の編集に含まれていたと思われるもう一つのミステリー「三つのリンゴ」を紹介するさいに、もう一度確認してみましょう。

迷子のラクダのモンタージュ画像——ヤマン（イエメン）の王子たち

あまり有名な話ではないのですが、バートンがウオートリー・モンタギュー写本から訳した「ヤマンのスルタンと三人の息子の話」（バートン版補遺所収）の前半に登場する迷いラクダのエピソードは、アンソロジー『クイーンの定員（二）』（光文社）に収録されているヴォルテール作「王妃の犬と馬（『ザディグ』所収）」や、エーコの『薔薇の名前』の冒頭部で使われているものと同じです。

バートン版の「ヤマンのスルタンと三人の息子の話」は、次のような筋立てになっています。

ヤマン（イエメン）のスルタンには三人の息子と一人の娘がいた。スルタンの死後、息子たちは遺産の分配に納得できなかったので、別のスルタンに意見を求めることにした。道中で見つけたラクダの足跡から、そのラクダの特徴を言い当てたのだが、そのラクダ

が迷いラクダだったため、持ち主からラクダ泥棒とまちがわれてしまう。スルタンのもとに話がとどき、兄弟たちはラクダの特徴を推理した理由を述べる。感心したスルタンは三人に食事を出してもてなす。兄弟たちは食事をしながら、料理女が月の障りのさいちゅうであること、料理につかわれた子ヤギが雌犬に育てられたこと、スルタンが不義の子であることを見抜いてしまった。それぞれの理由を聞いて驚いたスルタンは、遺産の問題は自分たちで解決するようにとすすめる。兄弟たちは父の遺言にしたがうことで同意した。

エラリー・クイーンは「クイーンの定員」の解説で、「ミステリーの起源は旧約聖書のカインとアベルの物語に置くのが通説だが……千夜一夜物語には探偵小説の思春期的徴候が各所に見られる」と述べています。迷いラクダの特徴を言い当てる話はユダヤ教の口伝律法であるタルムードにも登場していますし、「アルフ・ライラ」に関する記事を残したアッバース朝期の文人マスウーディーや、アッバース朝の歴史家タバリーの著作にも出てきます。それだけではなく、セレンディピティ（偶然に何かを見つけ出す能力）の語源となった「セレンディブ（セイロン）の三人の王子」という物語中の挿話として、英語圏ではかなり広まっていたようです。

「セレンディブの三人の王子」という物語はペルシア語からイタリア語に訳されたとされて

おり、現在確認されているところでは、十四世紀に書かれたアミール・ホスロー作のペルシア語詩『ハシュト・ベヘシュト（八つの樂園）』に初めて登場したとされています。ちなみにセレンディピティという英語を最初に使ったのは、『オトラント城奇譚』の作者ウォルポールでした。彼は子どものころに「セレンディブの三人の王子」を読み、そのときの感慨をもとにこの言葉を作ったのだそうです。

迷いラクダをめぐるエピソードを最後まで確認しておきましょう。王子たちは、問題のラクダが片目で尻尾がなく、背中の片方には甘い食べ物、もう片方には酸っぱい食べ物を積んでいたことを見抜きます。これは、草を食んだ跡が片側にしかなかったのは片方の目が見えないからであり、ラクダは糞をしながら尻尾を振り回して糞をまき散らすのに、糞が一箇所にとまっていたのは尻尾がないからであり、ラクダがいた場所の片方には糞がたかっていたのにもう片方には糞がいなかったのは、片方には甘い食べ物、もう片方には酸っぱい食べ物積んでいたからだと考えたのでした。

ホームズの先人たち——老王の眼力

ご存知名探偵シャーロック・ホームズは、外見からその人の職業を言い当てるという特技の持ち主でした。このようなホームズ像は、作者であるコナン・ドイルの恩師であったジョゼフ・ベル博士がモデルになっているとされています。病気の診断には何よりも観察が大切

であるというのが、ベル博士の持論でした。ドイルの自伝には、次のようなエピソードが紹介されています。

（ベル教授は市民の服装をした）患者にこう質問した。

「軍隊におられましたね？」

「ええ」

「除隊してまだそれほどたっていない」

「そうです」

「スコットランド高地連隊でしょう」

「そのとおり」

「下士官だった」

「そうです」

「西インドのバルバドス諸島にいましたね」

「まったくそのとおりです」

驚く患者や医学生を前に、ベル教授は種明かしをします。「この紳士は礼儀正しい人だが、帽子をとらなかつた。軍隊では帽子をとらないが、除隊してから時間がたっていれば市民社

会の作法になじんでいたでしょう。堂々として貫禄があるし、どこから見てもスコットランド人だ。象皮病の症状があるが、これは西インド諸島の風土病でイギリスにはないからね」アラビアンナイトにもベル博士のような人物が登場します。「ヤマンのスルタンと三人の息子の話」に登場する三人兄弟も訪問先のスルタンの素性を見抜いてしまいますし、バートンがプレスラウ版から訳した「真実の姿を見抜いた王の話」（バートン版補遺所収）では、次のような話が展開します。

世を捨てて旅に出た老王と王子が行き暮れてしまい、老王は奴隷市場で自分を売るようにと言う。王子はむしろ自分を売ってほしいと言うが、老王の言いつけにはそむけず、奴隷市場で老王を売ろうとする。奴隷商人が「この老人は何ができるのか」と訊ねると老王は「自分は宝石や馬や人の真価を見抜くことができる」と答える。その町の王の料理頭が老王を買い求める。老王は大きな方の真珠には虫が潜んでいること、良馬と見える方の馬が早く息を切らせること、自分を買った王が実はパン屋の息子であることを見ぬき、たいそうなほうびを得た。

王子たちの推理法——フィラーサ

ヤマンの王の三人の息子たちと、奴隷に売られた老王は、どのようにして見えているものから見えていないものの姿を推測したのでしょうか。ネタバレになってしまうのですが、どちらの話も日本語訳のバートン版には収録されていませんから、ここで彼らの探偵法を確認しておきましょう。

まずはヤマンの王子たちの話からです。食事を出してもてなしてくれた王との一件については、出されたパンの中に粉が残っていたのは料理女が生理中でパンをこねる力が弱っていたからであり、肉の外側に脂身がついているはずの子ヤギの脂身が骨のそばにあったのは、その子ヤギが雌犬の乳で育てられたからであり（犬の脂身も骨のそばについているため）、王が自分たちと食事の席をともしなかったのは王が卑しい生まれであるからだというわけでした。

次に奴隷に売られた老王の場合を見てみましょう。大きな真珠の中に虫がいるとわかったのは、老王がその真珠に触わるうちに真珠がかすかに温もってきたからでした。彼の説明によれば真珠の核となるのは雨のしずくであって「冷たい」という性質を持っているため、手で触っても温まらないはずなのです。しかるにその真珠が温まってきたのは、その中に何かの生き物がいるからだというものでした。また良馬と見える馬は老馬の子どもなので、若い

馬から生まれたものよりも早く息切れすると説明します。そして王が王の息子であつたらほうびとして自分に宝玉の類を授けたであろうし、法官の息子であつたら大金を、商人の息子であつたらそれなりの金を授けたはずなのに、王はパンをくれただけだった、つまり王はパン屋の息子だからだと結論したのです。物語中では、これらの推理はすべてあたつています。王子たちや老王の推理の中には、現代人の常識から見れば荒唐無稽としか思えないものもあるのですが、外の様子から内に隠されたものを見ぬくという点では共通しています。このように外見から内実を推測するやり方は、アラビア語でフィラーサと呼ばれています。

フィラーサという言葉は馬を意味するフアラスから派生しており、本来は馬市場で馬を適正に評価するためのものだったようです。中国や日本でも、馬の体つきや毛色などからその馬の性質や価値を推しはかることがおこなわれてきましたが、アラビア語文献にも馬の鑑別法が記録されており、それによると、良馬の相とは額に白斑があり、蹄の上に白い脚毛もしくは白い斑紋があるものとされていました。ちなみに『三国志演義』にもこれと同じく額に白斑、脚に白毛のある馬が登場するのですが、こちらでは主人にたたりをなす凶馬の相として描かれています。劉備の馬「てきろ的盧」です。

アラビアンナイトにはフィラーサが出てくる話がいくつか入っているのですが、なるほどと思わせる展開になっている場合もあれば、推理というよりは人相占いに近い内容のものもあります。

本格的な謎解き話——三つのリンゴ

最後に本格的な謎解き話「三つのリンゴ」を確認しておきましょう。この話は最初期のアラビアンナイトに収録されたと言われており、次のような展開になっています。

ハールーン・アッラシードがお忍びでバグダードに出かけた。ティグリス川のほとりであつた老漁師の網に頑丈な木の櫃びつがかかった。中には若い女のバラバラ死体が入って



最古の挿絵入りアラビアンナイト写本（マンチェスター大学図書館蔵）に描かれた馬

いた。カリフはジャアファルに「三日のうちに犯人を捕まえなければ一族もろとも吊るし首にする」と厳命する。ジャアファルが死を覚悟していると、若者と老人が「自分が犯人だ」と名乗りでてくる。カリフの前に二人を連れていくと、本当の下手人は若者の方であつたことがわかる。殺された女は若者の妻で老人はその父親だ

った。若者と妻は仲良く暮らしていたが、病床の妻がリングを欲しがるのでバスラまで行って三つのリングを買ってきた。妻はリングには手をつけなかった。妻の病気がよくなったので市場に出かけるとリングを持った黒人奴隷に出会った。どこでそれを得たのかと訊ねると情婦のところだ、そいつの夫がバスラから買ってきたのだと答えた。家に戻ると三つあったリングが二つしかなかった。妻に問いただしても知らないと言ひ張るので、思わず手にかけてしまった。死骸を櫃に入れてティグリス川にほうりこみ、家に戻ってくると長男が泣いている。理由を訊ねると、母親の枕元にあったリングを持って遊びに出たところ、知らない黒人奴隷にリングをとられてしまった、病氣のお母さんのためにお父さんがバスラから買ってきたのだから返してくれと頼んだが、黒人はそのままだどこかに行ってしまったと答えた。カリフは「若者の罪は赦し、黒人奴隷を吊るし首にする。ジャアファルがその黒人を見つけられなければ代わりにジャアファルを吊るし首にする」と言い出す。ジャアファルは黒人を見つけないことができず、家族に別れを告げようとする。末娘がリングを持っていることに気づいた。娘に訊ねると、家で使っている黒人奴隷のライハーンが持ってきたと答えた。ライハーンを問いつめると、そのリングは市場で知らない子どもからとりあげた、その子が言うには病氣の母のために父がバスラから買ってきたのだと言う。ジャアファルはライハーンをカリフのもとに連れていき、その命をたすけるという条件でカリフに別の話（大臣ヌールツ・ディーンとシャ

ムスッ・デインの物語」を聞かせた。話に満足したカリフはライハーンを赦すことにした。

あらすじからもわかるように「三つのリング」は緊密に構成された謎解き話であり、それと同時に杵物語とパラレルな関係になっています。シャフリヤール王の王妃は黒人と密通して殺され、王の怒りのはけ口となったシェヘラザードは物語を語ることで命をつなぎます。同じように若者の妻は黒人との密通を疑われて殺され、カリフの怒りのはけ口となったジャアフアルは、「これよりもおもしろい話を聞かせるので、黒人奴隸の命を奪わないでほしい」と願いでて成功するのです。

この回では、ミステリー仕立てになっている話をいくつか紹介し、アラビアンナイトには、文学的な効果を意図して念入りに構成された作品もあれば、民間で広まっていた言い伝えの類をほとんどそのままの形で書き記したのではないかと思われる作品もあることを確認してみました。そしてそのいずれにも捨てがたい味のあるところが、アラビアンナイトの魅力なのでしょう。